

「税金」で支え合う

甲斐市立玉幡中学校 2 年 増子 陽莉

私は、税金に対してあまりいいイメージをもっていなかった。なぜなら、インターネットで「税金が高い」などのマイナスな意見を見ることが多かったからだ。しかし、税について詳しく知るきっかけがあり、そのイメージは覆された。

そのきっかけとなる出来事の始まりは、私が登校している途中、工事をしているのを見かけたことだ。そして、中学二年生になって税金についての授業を受け、私達が安全に通学するために道路を整備するのにも税金が使われていることを知った。

このような体験から、私達の身近なところに税金に関わる出来事があるのかインターネットで調べてみた。すると、水を毎日使えるように上下水道の整備がされていることや、私達が使っている教科書やパソコンにも税金が使われていることが分かった。

中でも、特に印象深いのは、身体に障がいのある人が、「年金」という形で税金の一部をもらっていることだ。なぜ印象に残っているかということ、私の母は難病に指定されている病気にかかっているからだ。心や身体に障がいがある人を助ける為にも税金が使われていることを知り、税金のことを消費税でしか知らなかった私は衝撃を受けた。身近にいる人が知らないうちに、顔も名前も知らない誰かが納めた税金によって支えられていた。直接関わることはなくても、自分達が払った税金でたくさんの人が助けられていたり、支えられていることに気づいた。このことを知れば、税金に対してマイナスな意見をもっている人達も、税金を払うことに抵抗がなくなるのではないかと考えた。

中学生になって、今まで関わる機会が少なかった「世の中の仕組み」について学ぶことが増えた。その中でも「税金」について学び、日常生活でも意識するようになった。例えば、選挙に立候補している人が「税金」をテーマに演説している様子を見たり、救急車を見かけた時に「税金」を意識したりするようになった。特に、選挙では「税金」についての様々な意見を見かける。それを見る度に、「税金」とは私達の生活と深く関わりがあり、一人一人が意識して向き合っていくべきものだと感じかされる。また、私達は「税金」によってお互いに支え合っている。このように、私達にとって大切なものだからこそ、正しく使っていてほしいと思う。そして、私が今できることは少ないが、「税金」についてもっと知識を深めて、快く納税したい。